

『施設・設備』

1 0 施設・設備

(1 0 - 1) 学内の学習環境

基準 1 0 - 1 - 1

薬学教育モデル・コアカリキュラム及び薬学準備教育ガイドラインを円滑かつ効果的に行うための施設・設備が整備されていること。

【観点 1 0 - 1 - 1 - 1】効果的教育を行う観点から、教室の規模と数が適正であること。

【観点 1 0 - 1 - 1 - 2】参加型学習のための少人数教育ができる教室が十分確保されていること。

【観点 1 0 - 1 - 1 - 3】演習・実習を行うための施設（実験実習室、情報処理演習室、動物実験施設、RI教育研究施設、薬用植物園など）の規模と設備が適切であること。

[現状]

薬学部棟には1学年145名の薬学生の授業を行うための教室として、166m²（定員160名）の大教室が6部屋、選択授業等を行うための中教室（124m²）が3部屋、及び小教室（79m²）が2部屋設置されている。これらの教室において学部学生の授業を行っている。

また、参加型学習をはじめとする少人数教育のために専門実験室として10³～108m²の面積を持つ部屋を16部屋設置している。

演習・実習を行うための施設として、実習室（208m²）を6部屋、情報処理演習室（133m²）、動物実験施設（306m²、SPF動物使用可能）、RI実験施設（202m²）、薬用植物園（3674m²）を備えている。

情報処理演習室では学生がマルチメディア機器を使用し、容易に医薬品や薬物治療に関する情報を取得できるよう、「医薬品情報学」「臨床薬学演習」及び「実務実習事前学習」等の講義、演習及び実習のなかで、コンピューター活用の講義を行っている。この教育に供する情報処理機器などの配置状況は、全学的には約500台のパソコンが学生向けに用意され、薬学部8号館1階コンピューター室にあるパソコン52台は、毎日午後、薬学

部学生が使用できる。また、各講義室には液晶プロジェクター等のマルチメディア機器が設置されている。

動物実験施設の飼育環境については、バリアー区域及びオープン区域を設けており、それぞれ SPF 動物飼育室 2 室及びコンベンショナル動物飼育室 4 室を備えている。

本学 RI 実験施設は、薬学部棟の 202m²を充てて、学部設置に先駆けて平成 15 年に薬学研究所の施設として文部科学省の認可を受け設置され、貯蔵室、汚染検査室、廃棄室の他、低温室、測定室、暗室、第 1（物理、化学）実験室、第 2（生化学）実験室、第 3（動物）実験室を有し、管理室員をおいている。

また薬用植物園は平成 16 年の本学薬学部設置に伴い、学校法人武蔵野女子学院西東京校地内の 6 区画（第 1 薬草園～第 6 薬草園：総面積 3674m²）を薬学部附属薬用植物園として文部科学省に申請の上、設置された。

[点検・評価]

1. 本学における 1 学年学生数（145 名）に対して、十分な規模と数の教室が配置され、更に参加型学習のための少人数教育を行うことができる教室が用意されている。少人数教育のための教室は現状では広さ、数とも十分とは言えないが演習、実習のための施設は十分に整っており、学生実習から最先端研究にまで対応することが可能である。

2. 現在設置している RI 実験施設、情報処理演習室、動物実験施設は順調に稼働しており、それぞれの機能を果たして教育、研究における需要を満たしているが、情報処理演習室に関しては 4 年次に行われる CBT 対策を含め、薬学部学生が常時利用できるパソコン台数の増加が期待される。

3. 動物実験施設については、バリアー区域およびオープン区域が併設されており、概ね実習や卒業研究に必要な種類の実験動物を飼育することが可能となっている。動物実験施設の使用に関しては、『武蔵野大学薬学部 動物実験施設利用の手引き』を遵守することが徹底されている。

4. 本学アイソトープ施設は安全を第 1 に運営されており、毎月の作業環境モニタリング、法定設備点検の他、随時、汚染検

査等を行っており、また、施設利用者の熟練度も非常に高いため、現在までのところ、全く事故は起こっていない。

5. 各薬草園は、特徴をもった植栽計画のもと維持されており、特に第2園と第4園については、薬用植物に関するラベル表示を充実させている。同校地内には、薬学部以外の学部も設置されており、広く本学関係者に薬草についての理解を深めてもらうように啓発的活動を展開している。

[改善計画]

参加型学習のための少人数教育に対する教室においては広さ、数とも拡充していく必要があると考えられる。

基準 10 - 1 - 2

実務実習事前学習を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

本学薬学部の実務実習事前学習では、合計 183 コマの講義、演習及び実習を行っている。講義に関しては、1 学年 145 名の薬学生を収容可能な 166m²（定員 160 名）の大教室を 1 部屋使用している。少人数グループによる討論（SGD）や問題立脚型学習（PBL）などの演習は、中教室（124m²）2 部屋、小教室（79m²）1 部屋及び実習室（208m²）1 部屋を用いて実施している。最も重要な実習に関しては、20 名収容可能な模擬保険薬局実習室（62m²）、60 名収容可能な模擬病院薬局実習室（210m²）及び 80 名収容可能な調剤実習室（208m²）を使用している。模擬保険薬局実習室内には、受付カウンター、散剤台 2 台、水剤台 2 台、錠剤棚 4 台、外用棚 3 台、分包機 2 台、投薬テーブル 3 台、薬歴棚 1 台などが配置されており、実際の薬局と同等の実務を実施できるようになっている。模擬病院薬局実習室は調剤室、無菌室、模擬病棟等で構成されており、オーダーリングシステム端末 6 台、散剤台 4 台、水剤台 4 台、錠剤棚 1 台、注射剤棚 1 台、鑑査台 3 台、分包機 3 台、ベッド 2 台、クリーンベンチ 2 台及び安全キャビネット 1 台が配置されている。一般病院の薬剤部に備わる設備を有しており、臨場感のある実習を実施している。調剤実習室には散剤台 40 台と水剤台 40 台を設置し、学生が十分に練習できる環境を整えている。

[点検・評価]

本学薬学部は、SGD や PBL などの演習を行う教室や、十分な規模の模擬薬局及び調剤実習室を保有しており、1 学年 145 名の薬学生が円滑かつ効果的に実務実習事前学習を実施できる施設と設備を備えていると判断できる。

[改善計画]

特になし。

基準 10-1-3

卒業研究を円滑かつ効果的に行うための施設・設備が適切に整備されていること。

[現状]

学生は4年次後期に研究室配属され、5年次からの卒業研究は各研究室において指導教官のもとで行う。従って、卒業研究のための施設、設備は各研究室の専門実験室及び薬学部における共通機器が主な設備となっている。

研究室は17研究室が存在し、各研究室が7～8名の配属学生を受け入れる体制になっている。配属学生は専門実験室において卒業研究を行う。専門実験室は各研究室に付属しており、各専門実験室が108m²の広さからなる。この中に実験台をはじめとして卒業研究に必要な一般実験機器が備えられている。各実験室に無い機器や大型機器に関しては共通機器スペースが存在し、薬学系研究に必要な機器類はほぼ設置されている（NMR、フローサイトメーター、共焦点レーザー顕微鏡、電子顕微鏡、TOF/MAS、HPLC、無菌室、培養室など）。

[点検・評価]

汎用機器、大型機器等の基本的な実験機器は充足している。

[改善計画]

特になし。

基準 10 - 1 - 4

快適な学習環境を提供できる規模の図書室や自習室を用意し、教育と研究に必要な図書および学習資料の質と数が整備されていること。

【観点 10 - 1 - 4 - 1】図書室は収容定員数に対して適切な規模であること。

【観点 10 - 1 - 4 - 2】常に最新の図書および学習資料を維持するよう努めていること。

【観点 10 - 1 - 4 - 3】快適な自習が行われるため施設（情報処理端末を備えた自習室など）が適切に整備され、自習時間を考慮した運営が行われていることが望ましい。

[現状]

図書館は、平成18年5月現在、蔵書数294,751冊、その他、金倉圓照文庫、武蔵野校舎には楠正弘文庫、など本学の建学の精神及びこれまで蓄積されてきた本学関係の研究者ゆかりの貴重な蔵書を有している。

教育研究活動に資する図書等の利用環境として、図書館の所蔵検索にはOPAC（武蔵野大学図書館所蔵情報）システムを導入している。また、学外他大学の蔵書検索にはWebcat Plus（全国の大学図書館所蔵情報）、国立国会図書館蔵書検索にはNDL-OPACを活用している。

学生へのサービスは、インターネットによる情報提供に移行している。その他、図書館利用案内の発行（年1回）、大学教員による指定図書コーナーを特設し、学習のきっかけづくりを行なっている。これらサービスはWebによる情報提供に移行しつつある。

特に薬学部向けにはWeb of Scienceなど、オンラインデータベースやオンラインジャーナルを充実させており、教育・研究に対するWeb環境は整っている。また、薬学部は本学において新設学部であるため、新しい版の教科書、参考書類を充実させている。

図書館の施設規模及び蔵書数等は「武蔵野大学自己評価資料編 資料55 図書、資料の所蔵数」、利用状況等は「資料編 資料56 学生閲覧室等」に示す。

[点 検 ・ 評 価]

1. 新設学部のため、特に古い研究雑誌類が不足しているものの、これらの参考文献は大学間文献複写サービスによって入手が可能なこと、また多くの雑誌はオンラインジャーナルでも閲覧が可能なことから、教育研究に対する不自由感はない状態である。

[改 善 計 画]

特になし。